

すごろくワークショップ 進め方

準備するもの: 模造紙 カード類 ペン のり 特注さいころ コマ スコアボード

事前に動いておくべきこと: フォームでネタの回収→ネタをカードに書いておく
ヘルプカードも用意しておく
スコアボード

ゲームに適した人数: 4人くらいが適当

ワークショップの流れ:

- ①趣旨の説明
- ②アイテム紹介
- ③ネタカードの並べ替え
- ④ルールの確認
- ⑤遊んでみる
- ⑥感想
- ⑦災害被災地への募金の意義を知る 網掛けのところを中学生に体験してもらう

ゲームのルール:

発災からスタートし、特注サイコロを転がして進み、マスに書かれた内容で進んだり、悩んだりします。

嬉しいことが起こったマスでは、サイコロ2個を振って出た目の合計を進みます。

困ったことが起こったマスでは、ヘルプカードが使えます。

ヘルプカードを使ってどうピンチを切り抜けるか、対処方法を発表してください。

対処方法はメンバーに3段階(0~2点)で評価され、スコアボードに加算されます。

ヘルプカードは、日付を跨いだら返却してください。

全員がゴールしたらゲームセットです。

全員のスコアシートを比較してポイントが多い人が勝ち！

* 模造紙上の何がゴールなのか うちに帰れた

①趣旨: 必ず発生する自然災害をいかにして難局を乗り越えるかを考える。

それぞれが想像した危機を乗り越えるアイデアを共有するとイイコトアルヨより平和に生き残ることだけが正解の、意見を出し合うことで完成するゲーム。

②アイテム: 模造紙...タイトルと順路だけが書いてある

特注サイコロ...1と2と3しかない。嬉しいマスではさらに1つ増える。

状況カード...フォームで回収した内容を移したもの

ヘルプカード...参加者が普段準備しているものを持つ

防災備蓄品以外で家庭の中にあるものをいくつか並べる

コマ...準備済み

スコアボード...ホワイトボードに書き込めると何度も利用できる

- ③並べ替え： フォームからのマス候補をチームで話し合いながら並べる。
貼ってはがせるテープ糊はマスの裏

フォームを送って望の学生にも依頼しておく

- ④ルール： 模造紙に書いておく
口頭でも説明

- ⑤遊んでみる：時間制にした方がいいかも。

- ⑥感想・振り返り：フォームと紙両方を準備
済んだ方にはクリアファイルをプレゼント

- ⑦募金：お金の使い方のひとつとして、募金があることを知らせる
赤十字で現在取り扱っている災害支援金の提示
国内外すべて並べておき、zomyを貼れるようにしておく

私たちは今回のような活動を通して、市民の皆さんの防災意識向上を目指しております。
そして、これらの啓発活動の継続をもって、次年度以降の守谷市との防災協定締結を目指して
います。
守谷高校JRC部